

令和 6 年度

事業者番号 0218 事業所番号 021805

事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告

1 事業所の概要

(1) 事業所種別

事業所種別	C 平成20年度以降の3か年度(年度の途中から当該事業所の使用が開始された場合にあつては、当該年度を除く3か年度)連続して、年間原油換算エネルギー使用量が1,500kL以上の事業所(他の事業所の一部(区分所有部分、テナント部分等)である事業所は除く)
C	

(2) 事業所及び事業内容

事業所名	古利根川水循環センター		
事業所所在地	市区町村	久喜市	
	字・地番	吉羽772番地1	
産業分類名（中分類）	36 水道業		
分類番号（中分類）	36		
事業活動の概要	事業内容	主な事業内容：古利根川流域の下水処理 令和4度流入水量：14,564.4(千m ³ /年)	

2 事業所の温室効果ガス排出量の削減目標

(1) 第3計画期間の削減目標

計画期間		2	年度	～	6	年度
削減目標	エネルギー起源CO ₂ (必須)	基準排出量から、令和2～6年度までの排出量を平均20%以上削減する。(必要に応じて、その他ガス削減量、排出量取引を活用する)				
	その他ガス	引続き下水汚泥の高温焼却を実施し、エネルギー起源CO ₂ の削減と合わせ、事業所全体で基準排出量から、令和2～6年度までの排出量を平均20%以上削減する。(その他ガスについては、下水汚泥の高温焼却による一酸化二窒素の排出量削減取組みを引続き実施するが、基準設定可能年度以前より高温焼却実施済みであることから、一酸化二窒素の排出量削減は困難である。)				
エネルギー起源CO ₂ の削減目標の概要	排出可能上限量(計画期間合計)	22,540	t-CO ₂			
	削減目標量(計画期間合計)	5,635	t-CO ₂	事業所区分	第2区分	

(2) 第4計画期間の削減目標

計画期間		7	年度	～	11	年度
削減目標	エネルギー起源CO ₂ (必須)					
	その他ガス					

3-1 事業所の温室効果ガス排出量

(1) 原油換算エネルギー使用量の推移

原油換算エネルギー 使用量(kL)	計 画 期 間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
	2,213	2,094	2,306	2,144	

(2) 計画期間の温室効果ガス排出量の推移

CO₂換算（t-CO₂）

		計 画 期 間				
		令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エ ネ ル ギ ー 起 源 CO ₂		4,658	4,375	4,886	4,541	
	前 年 度 比（％）	—	-6.1	11.7	-7.1	
そ の 他 ガ ス	非 エ ネ ル ギ ー 起 源 CO ₂					
	メ タ ン	378	379	371	357	
	一 酸 化 二 窒 素	2,214	2,088	2,632	2,509	
	ハイドロフルオロカーボン					
	パーフルオロカーボン					
	六 ふ っ 化 い お う					
	三 ふ っ 化 窒 素					
温 室 効 果 ガ ス の 合 計		7,250	6,842	7,889	7,407	

(3) 計画期間の温室効果ガス排出量原単位の状況（エネルギー起源CO₂）CO₂換算（t-CO₂/指標）

		計 画 期 間				
		令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エ ネ ル ギ ー 起 源 CO ₂ 排出量原単位		0.2722	0.2553	0.2917	0.2813	
	前 年 度 比（％）	—	-6.2	14.3	-3.5	
活 動 規 模 の 指 標	単 位					
高級処理水量	1000m ³ /年	17,111.73	17,139.92	16,752.87	16,140.30	

（４）エネルギー起源CO₂排出量の増減に影響を及ぼす要因の分析

令和2年度 (2020年度)	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	無	設備の増減	無
	令和元年度と比較して、令和2年度は排出量が減少した。 焼却炉の改修があったので、その分焼却炉に使用する燃料が減ったため					
令和3年度 (2021年度)	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	無	設備の増減	無
	令和2年度と比較して、令和3年度は排出量が減少した。 【理由】 以下の理由による燃料減が影響したと考えられる ・R3年度も焼却炉の改修があり、焼却炉停止期間が令和2年度に比べ更に15日間長かったため使用する灯油量が減となった					
令和4年度 (2022年度)	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	無	設備の増減	無
	令和3年度と比較して、令和4年度は排出量が増加した。 【理由】 ・焼却炉停止日数が、令和3年度の119日間にに対し、令和4年度は27日間であったため、燃料及び電気使用量が大幅に増加したため。					
令和5年度 (2023年度)	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	無	設備の増減	無
	令和4年度と比較して、令和5年度は排出量が減少した。 【理由】 ・処理水量が16,752,869m ³ /年から16,140,282m ³ /年に減少したため。					
令和6年度 (2024年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減	

3-2 温室効果ガス削減目標に係る状況

(1) 基準排出量

基準排出量	5,635	t-CO ₂ /年
基準排出量の検証	実施済	

(2) 基準排出量の変更

	変更年度	変更量 (t-CO ₂ / 年)
1		
2		
3		
4		
5		

(3) 目標削減率

目標削減率の区分	第2区分
----------	------

(4) 削減計画期間

2	年度から	6	年度まで
---	------	---	------

(5) 年度ごとの状況

(排出量等の単位：t-CO₂)

		令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	削減期間 合計
基準 排出 量 等	基準排出量(A)	5,635	5,635	5,635	5,635	5,635	28,175
	目標削減率の 緩和措置						
	トップレベル認定						
	目標削減率(B)	20.00%	20.00%	20.00%	20.00%	20.00%	
	排出上限量 ($C = \sum A-D$)						22,540
	排出削減目標量 ($D = \sum (A \times B)$)						5,635
実 績	エネルギー起源 CO ₂ 排出量(E)	4,658	4,375	4,886	4,541		18,460
	削減率 ($F = (A - E) / A$)	17.34%	22.36%	13.29%	19.41%		—
	排出削減量 ($G = A - E$)	977	1,260	749	1,094		4,080
各年度の排出量の検証		実施済	実施済	実施済	未実施		

4 温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置の計画及び実施状況

No	対 策 の 区 分			対 策 概 要	実施 予定 年度	実施 した 年度	推計 削減量(t) (1年度 当たり)	
	区 番	分 号	区 分 名 称					
			大 区 分					中 区 分
1	360700		ポンプ、ファン、ブローワー、コンプレッサー等	36_電気の動力・熱等への変換の合理化に関する措置	1 系水処理反応タンク超微細散気装置を導入	R2	R2	
2	360700		ポンプ、ファン、ブローワー、コンプレッサー等	36_電気の動力・熱等への変換の合理化に関する措置	2 系水処理反応タンク超微細散気装置を導入	R7以降		
3								
4								
5								
6								
7								
8								
9								
10								
11								
12								
13								
14								
15								

5 事業者として実施した対策の内容及び対策実施状況に関する自己評価

(※希望者のみ記載)

自由記述欄

--